

駿建 2012 July Vol.40 No.2

日本大学理工学部建築学科 日本大学短期大学部建築・生活デザイン学科

SHUNKEN

Quarterly Journal of

Department of Architecture, College of Science and Technology, Nihon University
& Department of Architecture and Living Design, Nihon University Junior College

“駿建”は理工学部建築学科、短期大学部建築・生活デザイン学科に
日々溢れているさまざまなニュースを
魅力的に伝えるメディアとして生まれ変わります。

[SPECIAL FEATURE]

2011年度 日本建築家協会賞受賞記念インタビュー

「多面体の屋根・岐阜ひるがの」と

作品集『KEN YOKOGAWA landscape and houses』

横河健教授が今、考えること。



Special Feature

2011年度 日本建築家協会賞受賞記念インタビュー

「多面体の屋根・岐阜ひるがの」と
作品集『KEN YOKOGAWA landscape and
横河健教授が今、考えること。

Text & Interview = Motoko Tanaka (mosaki)

Photo(P5 右下 ,P6,P7)=Masaki Onishi(mosaki)



横河健教授に、ふたつのニュースがある。ひとつは「多面体の屋根・岐阜ひるがの」で2011年度日本建築家協会賞の受賞、もうひとつは初の作品集『KEN YOKOGAWA landscape and houses』が発表されたことだ。日本建築家協会賞を受賞した作品「多面体の屋根・岐阜ひるがの」は、多面の屋根の大胆な形状がそのまま室内に取り込まれた天井によって、さまざまな陰影を生み出す空間が印象的だ。29歳で設計した自邸「トンネル住居」からたびたび見られる特徴のひとつである、家具と壁の間のような間仕切り「環具」の姿も確認できる。作品集『KEN YOKOGAWA landscape and houses』では、過去37年に渡り公共施設や駅舎などさまざまな建築物を設計されたうち、住宅のみ30点を取りあげている。タイトルからは、敷地に対するこだわりが読み取れる。作品集、建築作品それぞれの特徴の謎に迫るとともに、横河教授の設計プロセスや建築教育に対する考えなども、あわせて伺った。



houses』



岐阜県群上市、標高 900mのひるがの高原に建てられた「ひるがの」は、父娘のための別荘である。玄関と設備室がコンパクトに納められた1階の上には2階寝室部分のボリュームが大きく張りだしている(写真上)。メインの2階は、大きさの違うふたつの矩形をつないだ平面となっている。2階にあがると、まずリビング、ダイニング、キッチンがあるが、これらはひとつの大きな空間に収められている(写真下)。ここでは敷地のロケーションを最大限に生かした視界が広がる一方、多面の天井が独特の陰影を見せながら、大空間の中での居心地を均一化させず、さまざまな表情を創出している。主室の大きな掃き出し窓は、引き戸のような仕組みになっており、全開時の大開口は、半屋外のような開放感だ。残念なことに、父は竣工前に亡くなり、この建築を見ることはなかった。しかし娘は週に一度は訪れ、愛する音楽とともに、そこで過ごすひとときを楽しんでいるという。



—この度は日本建築家協会賞受賞おめでとうございます。まず受賞作品「多面体の屋根・岐阜ひるがの」(以下、「ひるがの」と表記)のお話から伺わせてください。どんなクライアントだったのでしょうか。

ありがとうございます。クライアントは名古屋に住む女医さんです。お父様に感謝の気持ちを込めて、別荘を建ててプレゼントしたいという依頼でした。最初はどうやって建築家とコンタクトをとればよいのか、わからなかったと言います。しかしとってもパワフルな方で、インターネットで僕の名前や作品を調べてくれて、なんと僕が設計した建物を自力で探し出して見に行ったというのだから、驚かされました。どこにも住所などの情報を公開していないのですが……。

—今回の敷地はどのようなところですか。

岐阜県のひるがのは、都市部の名古屋から車で1時間半くらいかかりますが、冬はスキー場になるようなところで、見事な景観をもつ別荘地です。元々は電柱が立っていたらしいのですが、こんな素晴らしいところに電柱が立ってはいけなく、とクライアントは**開発業者に直談判して地中埋設させた**のだから、クライアントの熱意も、それに応えた開発業者も、すごいなと思いました。

—クライアントとの出会いから、竣工までは。

約2年かかりました。

—横河先生の住宅の設計は、だいたいこれくらいの期間がかかるのですか。

そうですね。どうしても1年以上は



「桜井別邸」内観



「弘中邸」外観

“包まれ感”を持つ多面体の可能性を目指して

かかります。お話を受ける際に、まず急いでいるかどうかを聞くことにしています。すぐに、という場合は、仕事を受けない場合もあります。今回なぜ1年以上かかったかという、ひとつはクライアントの予算よりも、だいぶオーバーしてしまったからです。設計中は、実現した最終案の他に、予算内に収めるための縮小案もつくって提案しました。だけど最終案をいたく気に入ってくださって。私も頑張りますから、やっぱりこの案で費用を、とおっしゃってくださいました。

— 「ひるがの」の多面体の形は、どのようにして生まれたのですか。

多面体をはじめたきっかけは、屋根の形状によって“包まれ感”が得られるところにあります。それから屋根を工夫することをずいぶん考えてきたわけですが、実際つくるのにどうかたちがいいか、というのは場合によって異なります。CADも使いますが、模型で考えることの方が多と思います。「ひるがの」では、数十個の模型をつくりました。「ひるがの」は単純なトラスではなく、集成材と鉄板を挟んだ、変形した梁が連続してできているんです。構造家のアラン・バーデンさんのアイデアですが、こういうつく

り方をした多面体は、これが最初です。

多面体をつくることはこれがはじめてではありません。最初に屋根の包まれ感を意識しはじめたのは「Fuji View House」(2007)からです。多面体ではありませんが、曲面になっています。「桜井別邸」(2009)も多面体ですが、これは鉄骨トラスです。室内空間は「ひるがの」と似ているように見えますが、構造も構造家も、全く違うのです。究極の多面体はこの「弘中邸」(2011)です。これは木造のトラスによって壁まで多面体でできています。

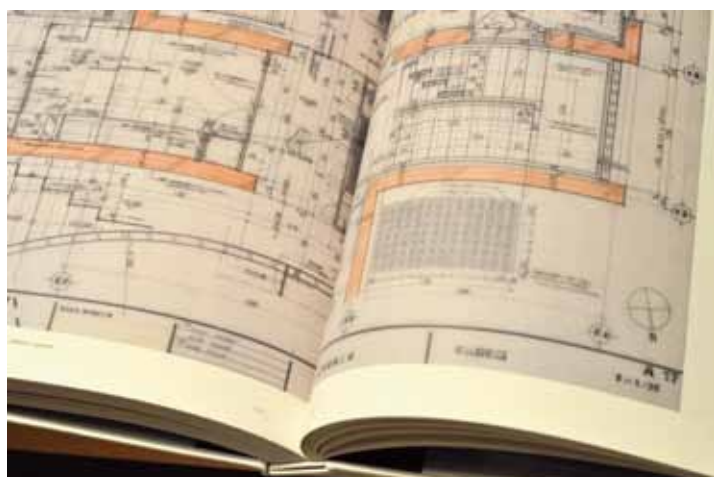
— 設計のプロセスは、どのようなものですか。

スケッチからはじまり、それをスタッフで模型などで具体化していきま

す。図面は、以前は手描きでしたが、今はCADです。クライアントに対しては、図面の他に模型やCGをつくって、案を理解してもらえるように、できるだけ親切に対応していきます。

— 手描きにこだわる方もいらっしゃいますが、CADとの違いはどこにあると思われませんか。

CADは画一的に描ける一方、手描きは同じ線でも微妙に太さに違いが現れることがあります。線を見るだけで、迷いがあるかどうか分かる。そこが手描きの面白いところではないでしょうか。(作品集『KEN YOKOGAWA landscape and houses』p218-219を見ながら)ほら、この手描き図面には、迷いが見えないでしょう(笑)。



作品集「KEN YOKOGAWA landscape and houses」p218-219に掲載されている手描きの図面

一作品集『KEN YOKOGAWA landscape and houses』（2012/ 新建築社）について伺います。横河先生は家具やプロダクトから住宅、オフィスビル、公共施設に至るまで、多岐にわたる設計活動をなさっていますが、なぜ本作品集では住宅に絞られたのですか。

現在の事務所、横河設計工房をはじめ今年で30年。その前のクレヨン&アソシエイツという設計事務所の時代を含めると、37年になります。全ての分野の仕事をまとめると、結構な量になってしまいます。百科事典みたいになっても面白くないし。そこで、僕の設計や空間づくりへの思いが、時間とともにどのように変化していったかを、わかりやすく伝えるために、設計をはじめた当初から現在もつくり続けている住宅だけに絞ることにしたのです。

一住宅からはじめても、住宅をつらなくなる建築家の方もいらっしゃいます。

それはね、面倒くさいからだよ(笑)。手間がかかる一方、設計料が高くなるわけではないので、割に合わない。設計料で考えていたら、こんなことできないですよ。それでも、僕にとって住宅は面白いからね。

一日大の藝術学部を卒業された、異色の経歴をお持ちですが、建築に対しては学生時代、どんなイメージだったのですか。

当時は建築の雑誌なんかの写真がモノクロだったことも影響して、すごく暗くて重たいなあ、と思っていました。しかもそれより写真やグラフィックデ

ザインをやりたくて、勉強していました。その中で黒川雅之さん（1937-）に出会って、インダストリアルデザインと建築との中間のような建築、例えばFRPでつくるような新しい建築の構想について目の当たりにしたり、イタリアでは建築からグラフィック、小さな商品のデザインまで手がけるデザイナーのことをアルキテットと呼ばれていることを知りました。つまり建築家がやっていること、建築家の守備範囲ってすごく広いということを知りました。「デザインする」ということが「建築の設計をする」ということ以上に、未来を感じさせ、ワクワクさせるものを持っていたんですね。そんなことを黒川さんに教わって、引き込まれていったんです。

デザインするということは未来を感じさせワクワクする





人間の生活の日常に 想像を巡らせる。 設計は、そこからはじまる

一なるほど。今の学生たちも、当時の横河先生のようなワクワク感を持っているように見えますか？

一般論では言えないけれど、あるときから「プログラムを生成してかたち置き換える」という、ある種のゲーム感覚には優れているというか、慣れてきていますよね。これは悪いことではないけれど、それで終わってしまっているように見えることがあります。もう少し建築って、実物が実像として長く残る。たとえば鉄の重さやコンクリートの荒さが空間をつくっていく。そういう実像としての認識が、若干薄いようにも見受けられます。もうひとつ、事務所を独立してつくるとき「インテリアや家具は失敗しても怪我で済む。でも建築は失敗すると人が死ぬ」とある人に言われて、ドキリとしたことがあるんです。当たり前のことだし、

過度に重く考えすぎる必要はないけれど、それだけ人の命がかかっている世界だぞ、という認識は、どこかにあった方がいいと思います。

一横河先生は、建築を決めるのは敷地だと、常々おっしゃっていますが。

そう、敷地。もう、1に敷地2に敷地、3、4はなくて5に敷地（笑）。クライアントが敷地を用意されていることも、一緒に探すこともあります。設計をはじめたときから敷地の状況が変わってしまって、一から敷地を探し直したこともあります。

一作品集の中では、建築を建てる際、まずは敷地の中の居心地や「気」のようなものを読み取ると書かれていますが、このような感覚的な力は、どうすれば身につけられるのでしょうか。

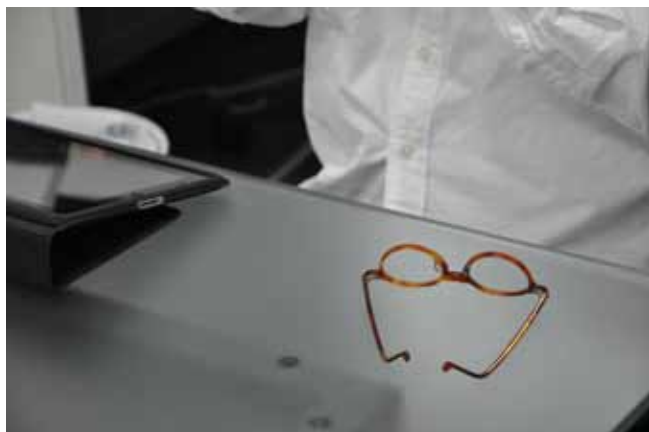
うーん……たとえば骨董を見たりすることと、近いんじゃないかなあ。これは特殊な能力などではなく、経験の多さだと思うんです。この家は何だか居心地悪いとか、薄気味悪い場所だとか。この土地よりはこっちの方が気分がいいとか、この土地の中でも特にここは気持ちのいい場所だとか。経験をたくさん積んで、そういうことを普通に感じるようになることが、設計の大前提でしょう。

一どうしても机上では理詰めになってしましますが、人間の基本的な感覚は大切にしたい方がいいですね。

そう、まずはこういうことを気にするかどうかだね。設計することは、あるべき姿を構築する、という想像を巡らせていくことから始まるのです。

横河 健（よこがわ・けん）

1948年、東京都生まれ。1972年、日本大学芸術学部美術学科卒業。1976年、設計事務所クレヨン&アソシエイツ設立共同主宰。1982年、株式会社横河設計工房設立。2003年～日本大学理工学部建築学科教授、現在に至る。2004～2006年、日本建築家協会副会長。2009年、東京大学大学院非常勤講師。主な受賞に1988年東京建築賞都市計画局長賞〈警視庁日比谷公園前派出所〉、1999年日本建築学会賞・作品賞〈グラスハウス〉、2002年日本建築家協会環境建築賞、日本建築学会作品選奨〈CESS・埼玉県環境科学国際センター〉、2004年日本建築家協会25年賞〈トンネル住居〉、2006年日本建築家協会優秀建築選〈平成の二畳台目〉、2010年日本建築家協会優秀建築選〈Fuji View House〉など。



(2012年6月12日(火)横河健研究室にて)

1

SNACS主催の海の家実施コンペ

「HAYAMA ISSHIKI Beach house 2012 Summer Competition」
学年を越えたチーム“（仮）アーキマンズ”が最優秀賞受賞！

Text = Motoko Tanaka (mosaki)



俺たちが（仮）アーキマンズだ！

取材後に記念撮影を。明日からも引き続き、日替わりで現場へ通う（仮）アーキマンズのメンバーたち。左から高野和哉くん（4年・佐藤慎也研究室）、四元仁美さん（4年）、飯名悠生くん（3年）、落合俊行くん（4年・佐藤光彦研究室）。四元さんは出産と子育てのため現在休学中。来年度から復学する。

一色の床達

床達は北西の夕日と南西の岬に基づく2種類の角度によって振られている。また床達はそれぞれの高さを持っている。普段は異なる表情を持つ床が、店舗に様々な空間を作り出す。ある床はビーチの延長線上のようであり、また別の床は都会のBarのようでもある。ビーチから床達をステップして回る構成によってそれらの空間をビーチから緩やかに体験することができる。また床の段差に腰掛けるなど、日常の何気ない振る舞いがここでは違った空間や景色へ繋がる事ができる。DJブースを中心にした回廊式の構成によって、ビーチを含めて様々な体験ができる一日を過ごせる海の家になる。



床のバスを通るとサンセットに向かうようになっている。

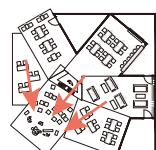


奥の部屋のような床から海を眺める。



格子屋根の床。奥の部屋とのコントラストの差がある。

Variation



ライブ時

一枚の床を舞台に他の床達から鑑賞する。海をバックに演奏を聴きながら食事やショップを楽しむ事ができる。



ワークショップ時

各床にグループテーブルを配置することで、レベル差で空間の違いができるので少人数のグループに対応できる。



DJ時

中心にDJブースを配置しているので、どの床にも接触している。全体が大きなホールになる。

Plan S=1:100



Diagram



上はコンペ時に提出されたもの。受賞後はクライアントや工務店など、さまざまな人々に助けられながら、実施へ向けた設計変更を繰り返していくことになった。そこでの苦難も充実感も、普段の設計の授業では体験できないものだろう。現場では、もはや学生ではなく、一人の社会的責任を持った建築家としての力が求められる。ブログ<<http://www.archimans.web.fc2.com>>では、建設過程を公開しているので覗いてみよう。

何度も変更を求められた実施設計も終了。 現在、海の家を建設中。7月7日にオープン！

2012年夏、神奈川県逗子の一色海岸に建てられる海の家の実施コンペを勝ち取った(仮)アーキマーズ。彼らがチームでコンペに参加するのはこれが初めて。四元さんが、知り合いである主催者からコンペを実施する旨を聞きつけ、設計のできるメンバーに声をかけてチャレンジすることにした。

まずは1次提出までの2週間、何度も案を持ち寄り、それぞれのいいところを集めていった。「みんなの案を絞るのは結構難しく、最終的に2案提出しました(高野)」「多数決で決めていこうと考えていましたが、途中から、それは違うなど。反対意見を無視するのは、このメンバーでやっている意味がない。だから両案とも、4人が納得するかたちで出せました(四元)」全応募数のうち、1次通過したの

は僅かに5組。通過の連絡を受けてから1週間後、クライアントや建築家、ファッションデザイナーなど5人の審査員の前でプレゼンテーションを行った。

彼らの採用案「一色の床達」の平面は、トランプのカードを手を持ったときのよう、矩形がずれながら、放射状に広がっている。床それぞれに異なる機能を持つこと、また中心が固定されないことから、イベントやライブなどでさまざまな楽しみ方ができる、といった点が評価されたという。提出案から実施までには、かなりの変更があった。例えば「天井は既存のテントを張ることに(高野)」「あと予算の関係で、傾斜を止める土留めを床のフェイクに見立てることに。結果的にいいかたちに変更できました(落合)」現在彼らは、学生ボランティアとともに

時間をつくっては現場に立ち、施工に勤しむ日々を送っている。

ちょっと変わったチーム名。今後も、この名前このメンバーでやっていくの？「僕らはこの名前、反対したんですよ(飯名)」「チーム名は私が考えました。(仮)はみんなが納得していないことからつけて、そのまま正式名称に。これからも(仮)アーキマーズでやっていきたいですね。いつか、これが(株)になるくらい成長させたい(四元)」「えっ、そんなことまで考えているの……(全員)！」竣工後の様子などは、次号改めてレポートする。オープン日は7月7日。13日にはオープニングパーティも予定されている。この夏は一色海岸に、ぜひみんなで駆けつけよう！

3331 Arts Chiyoda

Chiyoda-ku, Tokyo



2 佐藤慎也准教授が、「2012年日本建築学会作品選奨」を受賞

memo

皆さん、「3331 Arts Chiyoda」へは、行ったことがありますか？「3331 Arts Chiyoda」では、年間に何百ものイベントや展覧会、ワークショップなどが催されています。（内容はホームページをチェック！）先日は、漫画家・大友克洋さんの展覧会が開催され話題となりました。7月15日からは、美術家・藤浩志さんの個展が開催中。駿河台キャンパスからは、徒歩15分と近いので、まだの人は一度行ってみてください。ステキなカフェもありますよ！

2012年5月30日に、日本建築学会通常総会において贈呈式が行われ、佐藤慎也准教授が「2012年日本建築学会作品選奨」を受賞した。受賞対象作品の「3331 Arts Chiyoda」は、千代田区の廃校となった中学校を再活用したアートセンターで、その改修設計を行った。建築学科の非常勤講師を勤める古澤大輔先生や、大学院（修士）卒業生の馬場兼伸さん、黒川泰孝さんとの共同受賞だ。本賞は「建築に関する総合的な観点から高い水準を有する作品集掲載作品のうち特に優れた作品」に贈られるもので、「地域住民、行政、運営団体が一体となって実現できた新しい都市空間で、アートを通して様々な活動が互いにコラボレーションし、日常的な都市の営みと連携した空間が誕生することとなった」ことが評価された。

information

3331 Arts Chiyoda
〒101-0021 東京都千代田区外神田6丁目11-14
<http://www.3331.jp>



photo=3331 Arts Chiyoda

check

佐藤慎也准教授の研究室では、今年の夏も、ギリシャ悲劇の家族の物語を借りながら、家やまち、住まいや暮らしについて考えるアートプロジェクト『三宅島在住アトレウス家』に参加しています。2012年8月25～29日に【山手篇】、9月6～9日に【三宅島篇】を上演。詳細はホームページ<<http://thoa.gr>>をチェック！

Kumamoto Station West Exit Square

Kumamoto-shi, Kumamoto

Photo= イクマサトシ



3

佐藤光彦教授が、「建築九州賞（作品賞）」を受賞

2012年5月25日に、日本建築学会九州支部通常総会において贈呈式が行われ、佐藤光彦教授が「2011年度第5回建築九州賞（作品賞）」を受賞した。受賞対象作品の「熊本駅西口駅前広場」は、2008年に開催された公開設計競技で最優秀賞に選出され、2011年3月九州新幹線開業に合わせて竣工した駅前広場。構造設計は、大学院（修士）卒業生の小西泰孝さんが担当している。本賞は「九州地方における建築水準の発展に寄与し、学会と地域社会の交流を図ることを目的に」創設されたもので、「特に地域の建築についての独自の視点や新しい意匠並びに技術の提案が評価される作品」として評価された。

memo

この「熊本駅西口広場」の反対側には、「熊本駅東口駅前広場」もつくられています。こちらにつくられたのは“白い雲”をイメージした巨大な屋根。これを設計したのは、建築家の西沢立衛さん（横浜国立大学大学院 Y-GSA 教授、SANAA、西沢立衛建築設計事務所代表）。そうそう、西沢さんは、その昔、建築学科の非常勤講師として来ていたんですよ。もし、熊本駅に降りることがあったら、西口・東口にある2つの広場を見逃さないように！さて、これらのプロジェクトは1988年から行われている「くまもとアートポリス」という熊本県の事業の一環としてつくられたものなのです。当

check

佐藤光彦教授の作品「熊本駅西口駅前広場」が新建築 2011年5月号、GA JAPAN 110、日経アーキテクチャ 2011年5月10日号に掲載されています。植栽計画は山崎誠子助教が担当しています。いろんな雑誌で要チェック！



時知事だった細川護熙さんが、高度経済成長によって画一的になってしまった日本の町並みを反省し、「熊本らしい田園文化圏の創造」を目標としてはじまりました。参加建築家は、篠原一男、伊東豊雄、藤森照信、象設計集団、石井和紘、安藤忠雄、高崎正治、トム・ヘネガン、妹島和世、坂本一成、阿部仁史、西沢大良、乾久美子、小嶋一浩……と数え切れないほど。日大の先生では、山本理顕特任教授や今村雅樹教授なども参加されています。建物の総数は87。この夏に“青春18きっぷ”（11,500円で5日間JR乗り放題）で熊本旅行もいいかもしれません！

4

木村翔名誉教授が、日本建築学会
「2012年日本建築学会大賞」を受賞

2012年5月30日に、日本建築学会通常総会において贈呈式が行われ、木村翔名誉教授が「2012年日本建築学会大賞」を受賞した。本賞は「建築に関する学術・技術・芸術の発展向上に長年の業績を通じて、特に著しく貢献した本会個人会員」に贈られるもの。「建築音環境工学における学術・技術・芸術の発展と向上に多大な貢献を果たすとともに、数多くの研究者、専門家、実務家を育成した功績」が評価された。

5

小石川正男短大教授、高田康史短大副手が、
「住宅設計コンペティション『家族×住まい』」で入賞

小石川正男短大教授、高田康史短大副手連名の「住育家族-住まいと共に成長する家族のカタチ-」が、「住宅設計コンペティション『家族×住まい』入賞」（主催：株式会社マイホーム）を受賞した。開発分譲するモデルルームの実施設案を募集するもので、118点の応募から上位6点に選ばれた。

6

今村雅樹教授と山中新太郎助教が、
千葉県「第18回千葉県建築文化奨励賞」を受賞



写真 = 中川敦玲

今村雅樹教授と山中新太郎助教設計の「日本大学理工学部船橋キャンパス新サークル棟」が、「第18回千葉県建築文化奨励賞」を受賞した。本賞は「優れた建築物を表彰することにより、うるおいとやすらぎに満ちた快適な街づくりを推進することを目的」に贈られるもので、「学生の為の建物が本来の活動の意義を超えて、学生の活動の幅を広げた」ことが評価された。

7

三橋博巳非常勤講師（元・教授）が、
社団法人日本不動産学会会長に再任

三橋博巳非常勤講師（元・教授）が、社団法人日本不動産学会会長に再任された。3期目の任期は2012年5月から2年間。

8

「駿博功労賞」創設
第1号受賞者は、本岡順二郎名誉教授

2012年5月26日に駿博会の総会が開催され「駿博功労賞」が創設された。その第1号の受賞者に本岡順二郎名誉教授が選ばれた。

9

羽入敏樹短大准教授、星和磨短大助手の
レター論文が、日本音響学会の英文誌に掲載

羽入敏樹短大准教授、星和磨短大助手のレター論文 "Relationship between reflected sound density and mean free path in consideration of room shape complexity" が日本音響学会の英文誌 Acoustical Science and Technology 33, 3 (2012) に掲載された。

10

羽入敏樹短大准教授執筆の『コンサートホールの
科学 形と音のハーモニー』が刊行

羽入敏樹短大准教授が執筆した『コンサートホールの科学 形と音のハーモニー』（共著、日本音響学会編）がコロナ社より刊行された。コンサートホールの形と音の関係を読み解くうえでの科学、その目標でもある音響設計の現在を解説したものである。

短期学大学部「建築・生活デザイン学科」

今年の新入生たちは、千葉県香取市佐原へ向かいました！



国立民族歴史博物館前にて



佐原の町を歩く

学科名称を日本大学短期大学部「建設学科」から「建築・生活デザイン学科」へ変更して初めて迎えた新入生を対象に、4月21日（土）オリエンテーションが実施されました。

今年の訪問先は「小江戸」と呼ばれる千葉県香取市佐原の伝統的建造物群保存地区と千葉県佐倉市の国立歴史民俗博物館。

午前8時30分、85名の学生たちが眠い目をこすりながら船橋校舎に集合。

バスに乗り込む際には、9人のグループリーダーがメンバーの点呼を取りました。

さあ、9名の先生方とともに、いざ日帰りの研修旅行へと出発です！

佐原：伝統的建造物群保存地区

「小江戸（こえど）」とは、「江戸のように栄えた町」あるいは「江戸の風情を残す古い町並みを有している町」といった意味合いで使われています。佐原（さわら）は、古くから水郷の町として栄え、市街の小野川沿いには歴史的な建造物が残っていました。1990年頃より積極的に町並み保存に取り組み、1996年には関東地区では初めて「重要伝統的建造物群保存地区」に選定されました。これを機に、やはり歴史的町並み保存に取り組んでいる埼玉県川越市、栃木県栃木市とともに「小江戸サミット」を継続的に開催するなど、官・民が協力した街づくりに取り組んでいます。

10時30分、佐原到着。今回の研修では、佐原町並み交流館から3名のボランティアガイドを派遣いただきました。学生諸君はグループ担任の先生方とともに3つのグループに分かれ、ガイドさんの先導のもと、きれいに整備された運河沿いの道を歩きながら、レンガ造りの三菱館（旧三菱銀行、大正3年築）、黒塗土蔵造りの正文堂（明治13年築）、わが国で初めて実測地図を作った伊能忠敬の旧宅などを見学し、ゆ

ったりした時間が流れる佐原地区を堪能しました。

昼食：成田東武ホテルエアポート

12時40分、成田東武ホテルエアポートに到着です。このホテルは、成田空港に非常に近いということもあって、旅行者の利用を第一に考えたホテルで、今日の昼食は、このレストランでのランチバイキングです。学生諸君は、天井が高く落ち着いた造りのロビーにやや面食らった感もありましたが、ローストビーフ、魚料理、パスタなどおいしい食事に舌鼓を打っていました。

佐倉：国立歴史民俗博物館

佐倉の国立歴史民俗博物館（通称、歴博）は、「考古、歴史、民俗」の3分野を展示の柱として、1981年に開館されました。歴博の常設展示は、旧石器時代から現代にいたる各時代を象徴するような事物を取り上げたテーマ展示が主体となっています。重要な古文書や土器・石器などが多くが展示されていましたが、これから建築を学ぶ学生諸君にとっては、当時の住居や街並みを再

現した模型の展示に興味津々の様子でした。また、来館時は企画展示として、室町時代から江戸時代にかけて、京都の市街や校外の人々の様子を描いた「洛中洛外図屏風と風俗画」が展示されていました。いずれも非常に興味深いものばかりでしたが、研修時間がやや短く、佐原の建築物や歴博の展示物を見る時間を十分に取ることができませんでした。

大学到着

17時45分、無事に船橋校舎に到着しました。往路のバス中では、やや緊張の面持ちだった学生諸君も、帰路ではすっかり打ち解けた様子で、友人たちとの会話を楽しんでいました。ただし、今回はわずか一日の研修だったので、じっくりと佐原の建築物や歴博の展示物を見る時間が取れなかったのがやや残念でした。次回は友人たちと、時間をかけて佐原や歴博を訪問してもらいたいと思います。

最後に、今回のオリエンテーション実施にご協力いただいた先生方や、企画立案いただいた旅行社の方々に御礼申し上げます。

温故知新 金子晟也(3年)

佳水園に泊まったのは感激でした。各客室のそれぞれ異なったプランニングや家具の変化は、村野藤吾の繊細さと建築家としての執念を感じました。数奇屋建築に基づくデザイン性、動線から視覚的なトリックまで、身をもって体感できたのは良い経験です。村野藤吾の建築としては、最終日に見学した宝塚カトリック教会にも同じような繊細さを感じました。尖塔へと伸びるような滑らかな曲線は豪快で、でも全体としてどこことなく住宅地に溶け込もうとしているような感じでした。それに対し内部は壮大で、光の演出が印象的でした。数奇屋建築から教会建築まで、

村野建築の振り幅には驚かされます。いずれも、そこに行かなければ分からなかった感覚です。また、ヴォーリズの日本基督教団大阪教会堂や神戸女学院など、見比べて何かを感じる事がこの旅行のテーマであったように思います。

今回の旅行の特徴としては、前半に日本の古建築を巡り、後半に近代建築を回ったことです。東大寺や石山寺を図面を参照しながら、実際に体感して、改めて先生の解説を聞いたのは、後にすごく贅沢なことだったと思いました。日本人古来の美的センス、それから構造に至るまで、本当に息をのむものが

ありました。また、普段は見られないような修復現場を見学し、実際に触れて“歴史”を感じました。職人さんが古来の方法で、手作業で修復している工程を生で見て、歴史的建造物を保護し修復することの意義、重要性を、私は改めて思い知らされました。

私がこの旅行を経て受けた影響は、まず建築の見方、楽しみ方を習った点にあります。実際、お茶の水にはヴォーリズに関する建築があり、そこ（通じて歴史的なもの）に興味を持たせてくれたのが今回の研修旅行です。東京にも見るべきたくさん建築があると思いました。

REPORT 建築史・建築論研究室 関西研修旅行報告

建築史・建築論研究室では毎年2月に関西研修旅行を開催。この旅行は実際に建築を見て体験することが醍醐味。短期間で集中的に古代から近代の建築や、一般公開されていない建築を見学し、その場で先方の解説、質問を通じて理解を深められます。今回は、3人の学生によるレポートを届けます。



|日程：2012年2月25日(土)～2月29日(水)|参加者：学生30名 引率教員11名|見学先：2月25日(土)東大寺(転害門、南大門、大仏殿、鐘楼、(日)金剛寺、石山寺、園城寺、都ホテル(佳水園)、2月27日(月)曼殊院、旧田辺邸、角屋、2月28日(火)綿業会館、中之島公会堂、日本基督教団

磨かれる5日間 鈴木貴博(M1)

今年遅咲きとなった湯島天神の梅のつぼみもほころび始め、春の足音が大きくなる2月の末、私は2年ぶりに関西研修旅行に参加した。

研修旅行では古代から中世、近代建築と日本の建築史を追いながら、現存する建築物を教材に建築を学んだ。飛鳥時代から昭和と各年代の建築物をじっくりと見学するため、研修旅行後に私はいつも時間旅行をしてきたような感覚になる。一つ一つの建築物が各時代を代表する建築物であり、日本人

の持つ美の感覚の素晴らしさや技術力の高さを実感できる。特に修復現場では普段は見ることのできない木骨だけの屋根や修復に携わっている職人の屋根を葺く技術の話などが聞け、直に先人の技術力のすごさが伝わった。

旅行の前半は移動距離が長いので貸し切りバスでの移動であるが、後半は公共交通機関や徒歩での移動であり、まち全体の雰囲気も味わいながら建築を見た。古都のかをりが残る奈良・京都、異人情緒が残る神戸など、東京とは違

う雰囲気を持ったまちの散策を楽しんだ。さらに、研修旅行では食事のための自由時間が多いので、京都の湯豆腐、大阪のお好み焼きなど、各地の名物めぐりもすることができた。すばらしい建築を視覚で味わった後に、各地名物料理を味覚で味わいながら、建築について感想を話し合い、自分の見識を深くすることができ、これも研修旅行の醍醐味の一つである。

また、研修旅行には学生だけでなく、建築史・建築論研究室の卒業生や計画



陰影礼賛 富樫由美(4年)

関西研修旅行は今年で2回目。1回目目で佳水園に惚れ込み、再び泊まりたいということで参加しました。今回は佳水園と同じくらいの感動が再びありました。

三井寺勸学院でのことです。そこには、狩野光信によって描かれた障壁画があります。金地の中に四季の花が描かれていて、一之間の周囲を囲っています。それまで美術館や寺院でみる金地の障壁画や屏風などは金が派手に輝き、金持ちの派手好きで品のない様に感じられてあまり好きではありませんでした。

勸学院でも人工照明が天井から垂れ、室内をこうこうと照らしていました。そ

のせいで、金地が均等に光を含み、嫌らしさがでてしまっていました。するとOBの1人が、室内の照明を消す様に案内に頼みました。薄暗くなり、室内にある光は、ほのかに庭から入ってくる光だけになりました。目が慣れてくるにつれて金地はぼんやりと光を含み、空気や奥行きを含み、とても上品に感じました。まさに陰影礼賛とはこのことかと、はっとしました。そして、室内は先ほどの室内とは空気が変わり、学問所としての凜とした空気によってみだされたことに気づきました。また、位置を変えてみると動きに合わせて壁面に含まれた光が動き、とても印象的でした。

当時の人々は金のもつ光を含む効果を、うまく空間に活かしていると思いました。明るい室内が当たり前になってしまった現代における、光を均等に含んでしまった金とは、全く違います。

現在の状況でみるより、空間を構成する一部として、そしてつくられた当時に近づけた環境条件下におくことによって、そのものの役割や効果を生々しく感じられ、とても大切な経験をすることができました。

今回の旅では、その他にも様々なことに気付くきっかけをくださった先輩や先生方の観点や姿勢に刺激をうけることができ、とても良い旅でした。



大湯屋、二月堂、法華堂)、法隆寺(中門、金堂、五重塔、夢殿、伝法堂、etc.)、2月26日
大阪教会教会堂、真面観光ホテル、2月29日(水)宝塚カトリック教会、神戸女学院

系・構造系などの先生方も参加された。参加した先輩や後輩との交流は勿論だが、先生方の建築観や人生観など普段の講義では聞くことのできない話が聞け、自分との違いや共感する点などを話し合えるとても面白い懇親会もあり、新たな視点を持つことができた。貴重な体験を通して少しでも自分を磨くことができ、とても楽しい研修旅行であった。

参加は自由。毎年開催しています！

今年は奈良や京都の他に滋賀、大阪、さらには兵庫を見学地とする欲張りなコースでした。先生方の数も11名ととても多く、さまざまな視点からのお話をうかがうことができました。また修復現場見学や職人さんによる檜皮葺の実演など通常の旅行では体験し得ない見学もあり、好評のうちに研修旅行を終えることができました。建築に対するさまざまな見方や捉え方を学ぶことができるよい機会ですので、興味のある学生は是非来年参加してみてください。

(幹事：奥田優人、中村林太郎、高木智加、大塚慎平、島矢愛子／
建築史・建築論研究室 M2)

the new teacher

非常勤講師

今年は、新しく理工学部建築学科で7名、短期大学部で4名の非常勤講師の先生を迎えました。各分野の第一線で活躍する方々からのメッセージが届きました！

赤松佳珠子(あかまつ・かずこ)

理工 (建築デザイン I)



宇土市立宇土小学校

建築の設計は、柱や壁といったエレメントや、コンクリート、ガラスなどの材料を使って、空間を組み立てるだけでなく、そこで起こる出来事や、人と人、人と物の関係を考えることだと思います。光や風、気温、音をどうやってコントロールするか。それらがどのように相互に関係しあって空間を形作るか。その空間をどのように感じるか。人々は建築からのメッセージを感じているはずですが、そのメッセージは、すべての人が同じことを感じる強力なメッセージではなく、一人ひとりがそれぞれ違うことを感じることができる、ささやきかけのようなメッセージであって欲しいと思っています。



1990年、日本女子大学家政学部住居学科卒業後、シーラカンズ(のちCAT)に加わる。2002年よりパートナー。現在、日本大学、法政大学、日本女子大学、神戸芸術工科大学非常勤講師

伊藤博之(いとう・ひろゆき)

理工 (建築設計 I, II)



シモキタハウス

建築には、既にあるモノや環境を、以前とは少しだけ違うものとして世界へ送り返す力があります。そういう建築は、例えば住宅であれば、住人の生活についての認識を少しだけ深め、周囲を少しだけ、いきいきさせることができると思います。課題

のスタディは、人によって色んなアプローチがありえますが、全く新しいデザインをいきなり作り出そうとするのは、なかなか難しいかもしれません。むしろ、どんなに小さな違いでも、みなさんそれぞれにしか見えていないものがきっとあるはずですから、それを見きわめて、大切に育てて欲しいと思います。



1993年、東京大学工学部建築学科卒業。1995年、東京大学大学院工学系研究科修士課程修了。1995-1998年、日建設計。1998年、伊藤博之建築設計事務所設立、OFDA共同設立

岡山理香(おかやま・りか)

短大 (美術・デザイン史)

本年度後期から「美術・デザイン史」を担当する岡山理香です。どうぞよろしくお願い致します。出身は文学部の史学科美術史専修で、卒業論文はウイーンの建築家otto・ワグナーについて書きました。修士論文では、大正時代に建築界で起こった論争について考えました。私は、建築は芸術の一分野だと思います。建築を理解するために、美術やデザインの歴史や理論は必要だと考えます。美術やデザインの歴史を知り、ぜひ美術館やギャラリーを訪れて、実際に作品を観てみてください。また、美術館の建築も魅力的なものが多いのでゆっくり見学することをおすすめします。



早稲田大学第一文学部卒業、武蔵野美術大学造形学コース修了。1997年、武蔵工業大学工学部専任講師。2001年、武蔵工業大学工学部助教授。2009年、東京都市大学(旧武蔵工業大学)知識工学部准教授

鹿内健(しかうち・たけし)

理工 (デザイン基礎、建築設計 I)



六本木農園

「建築はわずかな言葉、弱々しい言葉しか発する事が出来ない。しかしそれは常に発せられる持続的な圧力のようなもので、それによって社会を変革していくのだ」ウィリアム J.R. カーティスという評論家の言葉です。3.11の後に読むと非常に興味深い言葉です。いま私たちの身の回りにある事は右肩上がりに成長する社会を前提としています。でも震災を機に色々な事が変わる気がします。そのように社会が変

革を求めている時に皆さんが建築を選んだのは、何か特別な事かもしれないです。何かを問いつけながら建築に取り組んでみてください。



2003年、東京都立大学院(現首都大学東京)工学研究科建築学専攻修了。2004-2005年、建築設計 SPEED STUDIO。2005-2008年、オンデザイン。2008年 - 鹿内健建築事務所設立

島森功(しまもり・いさお)

短大 (色彩計画)



NoWar 美術家の集い展 「なめんじゃあねえ! 6ヶ国首脳大麻雀大会」

今年度の後期から「色彩計画」を担当する島森です。よろしくお願いたします。色彩学は誰にとっても身近な色に関する研究をする学問ですが、現代の色彩学の祖は物理学者のニュートンということもあり、色彩学の教科書や文科省の「色彩検定」参考書にはしばしば難解な数式も登場して敬遠されがちかも知れません。「色彩計画」ではできるだけ実験を多く取り入れたりと、CGを使った判りやすい解説を試みたいと考えています。色彩検定の資格を取得したい人にとっても役立つ情報を発信していく予定ですので意欲ある人の受講を期待しています。



1982年、武蔵野美術大学造形研究科大学院修了。広告・ID・環境等のデザイン業務に従事。1986年より東海大学、女子美術大学・武蔵野美術大学・千葉経済大学等の講師を兼任

関野宏行(せきの・ひろゆき)

理工 (建築設計 IV)



東京国際展示場(東京ビックサイト)

建築は美しい。建築は大きい。建築は人に幸せをもたらす。それを生み出す喜びを有する建築家は幸せです。建築家になって後悔することは絶対にありません。ですので、建築設計を職業として選択し、さらに建築家を志す道を選ぶ学生のみなさんが

少しでも多くなることを望んでいます。そして早い段階で自分は建築設計の才能がないからとあきらめて欲しくありません。建築の設計は適切な方法で学び訓練すれば、誰でも確実に建築家になれるからです。あきらめない人がなれるのです。その方法を少しでも伝えることができれば良いと考えていますので、何でも相談して欲しいと思います。



1980年、早稲田大学理工学部建築学科卒業。1980年、渡邊建築事務所勤務。1982年、佐藤総合計画入社。(株)佐藤総合計画 取締役常務執行役員TM室(設計本部)代表

塚田修大(つかだ・のぶひろ)

理工(デザイン基礎、建築設計Ⅰ)



いまさらながらですが、建築はとても奥が深く難しいものです。掴んだと思っても、すぐにその輪郭がぼやけていってしまいます。そんな僕が学生諸君に何を教えてあげられるのだろうか?と思うことがあります。正直、建築が何であるかは教えてあげられないと思います。でも建築をどう悩むのかは教えてあげられるかもしれません。おそらく建築が解ったと思ったらそこで終わりです。悩んでいるうちはまだ先があります。僕も悩んでいます。学生諸君にも大いに建築を悩んでもらいたいです。



1993年、東京理科大学理工学部建築学科卒業。1995年、早稲田大学大学院修士課程修了。1996年、コロンビア大学大学院修士課程修了。1996-2000年、伊東豊雄建築設計事務所。2001年、塚田修大建築設計事務所設立

野田誠(のだ・まこと)

理工(不動産経営)

今年から、非常勤講師を勤めます三菱UFJ信託銀行の野田です。30年以上にわたり不動産に関する実務や企業への貸出を中心に業務を行ってきました。またこの間、不動産鑑定士として、不動産マーケットに関する数冊のビジネス書を執筆しています。不動産の需給関係と金融の両面の視点を基に、不動産マーケットはどのようなのか、また合理的な価格はどのように決定

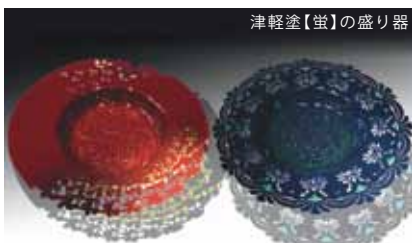
されるのかをとらえ、これが具体的な不動産ビジネスとどう結びついているのかをテーマとしていきます。建築技術者を目指す皆さんに、将来不動産ビジネスに就くときに、役立つお話ができればと思います。



1980年、早稲田大学法学部卒業。1980年 - 三菱信託銀行(現三菱UFJ信託銀行)株式会社。2003年、同不動産コンサルティング部部長。2009年、同専門部長

南幹子(みなみ・もとこ)

短大(造形デザイン演習)



今年度後期から非常勤講師をさせていただくことになりました。小規模ではありますがデザインオフィスで工業デザイン、パッケージ、CIなどデザイン全般を手がけ、ここ数年は青森県弘前市の地域活性化に取り組み、伝統工芸や農産物の高付加価値商品のブランド化を目指しています。様々な方と仕事をしていて感じることは「出来ない」「難しい」という一言で新しいことに取り組もうとしない人が多いことです。「難しい」のは困難なだけであって不可能ではありません。学生の皆さんは失敗を恐れずチャレンジし、乗り越えた時の喜びとモノづくりの楽しさを堪能して下さい。



1996年、日本大学芸術学部美術学科工業デザイン卒業。1998年、Central Saint Martins 修士課程修了。1998-2002年、(株)モリテックス。2002年 - (株)田中デザインオフィス

宮坂知明(みやさか・ちあき)

理工(建築設計Ⅰ、Ⅱ)



想像力を自己表現するその「1本の線」から始まる設計のプロセスは、音楽に例えるなら作曲者であり指揮者であるのと同じように、創造することの喜びや困難を合わせ持つものです。そしてその1本の線が、やがて面になり立体的空間へ現実的に

構築されると、たちまち社会性を帯びてゆきます。皆さんはその敷地に落とす初めての線を、どのように、あるいはどちらに向かって描きますか?設計の醍醐味は、デザインが得意不得意と決め付けずに、皆さんに内在する想像力の可能性を探求し、人や建築の出会いに触発されて初めて生まれる苦しみの中から、見つけられる喜びの旋律によって潜在する力が昇華してゆくものであると思うのです。



1987年、日本大学理工学部建築学科卒業(近江栄研究室黒沢隆ゼミ)。1987年、棚橋廣夫+エーディーネットワーク等を経て、1999年より岡部憲明アーキテクチャーネットワーク。2002年より同上管理建築士

横村隆子(よこむら・たかこ)

短大(建築デザインスタジオⅠ他)



ものを「創ること」は個が発想し表現することです。設計の講座は理論の講座と違い「個」の営為で創られるプロセスを教員と共働で行うことになり、それが結局技術の部分になります。建築は生活と密接に関わり社会のあり方を映し出し十人十色の生活があるように、答は1つでなく様々な可能性を模索します。「脳みそに汗をかく」程に思い悩み調べ表現して、理解された時の達成感は、大きくそれを多く味わえるよう汗して欲しいと思います。恩師が「出る杭は打たれるが出過ぎた杭は打たれない」と示唆されていましたが、出過ぎた杭になるくらい表現し自分力を養ってほしいと思います。



1977年、日本大学理工学部建築学科卒業(近江栄研究室)。1977年 - 黒澤隆研究室、板垣元彬建築設計、水澤工務店設計部、UG都市建築を経て1996年、横村隆子 YHT環境設計設立

memo

理工学部建築学科にも、短期大学部にも、各分野の最前線で活躍する数多くの先生方が、非常勤講師として教鞭をとられています。先生方が社会の中でどんな活躍をされているか、書籍やインターネットで、調べてみましょう!

REPORT

平成23年度 建築学科就職状況

はじめに

本稿は平成23年度の建築学科、建築学専攻の就職状況を報告するものであるが、読者の多くはこれから就職活動に望む（望んでいる）学生たちであろうから、本学の就職に関する基礎的な情報から述べる。私たちの身近で就職支援をしているのは**建築学科教室**である。ここでは直接もたらされる企業からの求人の整理や就職登録カードの保管、教室推薦状の発行などを行うとともに、卒業後の進路の情報管理を行っている。企業から内定が出たら、速やかに「卒業・修了後の進路届」を提出しなければならない。ひとまわり大きな組織に**理工学部就職指導課**がある。各種の就職支援関連講座の開催や1年生に配布された“CAREER SUPPORT GUIDE 2013”、3年生に配布予定の「2013 就職の手引き」「公務員を志す諸君へ 2013」の作成と業界セミナーの開催など理工学部全体の就職活動支援を行っている。さらに大きな組織として、**日本大学学生支援部就職課**がある。企業から日本大学に向けての求人情報はすべてここに集められ、NU就職ナビに掲載される。また、下部の公務員試験支援センターによって公務員を目指す学生に対しての講座

の開催などが行われている。日本大学からは毎年2万人を超える卒業生が巣立っていくが、この2万人を対象にした求人が**NU就職ナビ**に集約されているので、大いに活用してほしい。なお、企業から内定が出たら、NU就職ナビにおいて「進路届」を提出しなければならない。付け加えるならば、NU就職ナビは卒業生に対しても開かれているので、卒業・修了後にもサポートを受けられるというメリットがある。そのほかにも建築学科卒業生による**校門建築会**や**理工学部校友会**などOB・OG主催による**就職相談会**も毎年開催されている。

長引く景気低迷と東日本大震災の影響により就職活動は長期化と、困難を極めている。上記のような何重もの支援を受けてぜひ就職戦線を勝ち抜いてほしい。

NU就職ナビ

https://recruit.nihon-uac.jp/surasshununavl_gakusei/view/gakusei/gsLogin.view

建築学科求人一覧

<http://inhouse.arch.cst.nihon-u.ac.jp/cgi-bin/cbdb/db.cgi>

概況

就職希望者のうち内定が得られて卒業・修了した者は【表-1】に示すように91%である。昨年度（73%）に比して大きく上回った。これは内定者数は16名増加する一方で、就職希望者が、42名減少したためである。

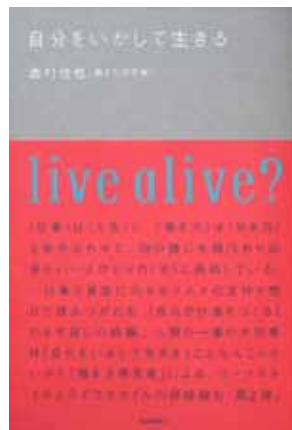
【表-2】に月別の求人件数を示す。23年度は22年度に比べ、全般的に求人数が増えており、合計で60名弱の増加となっている。

【表-3】に求人・内定者の内訳を示す。卒業生・修了者数に対する内定者数の割合が最も高いのは建設業であり、次いで住宅産業、設計事務所・インテリアの順位となっている。内定先の企業規模別にみると大企業ほど内定者が多く、小企業の内定者は少ない傾向がみられる。特に大学院生の場合はこの傾向は顕著で、設計事務所・インテリア以外では、大学院修了者が従業員99人以下の小企業に就職内定を受けることはほとんどないといえる。

これらの傾向をコース別にみると（P20~21 上部）、＜環境・構造コース＞では、建設業の内定者の割合が最も高く、次が住宅産業関係であり、その割合は、＜環境・構造コース＞にもかかわらず、設備関係より高くなっている。＜

就職関連 オススメ書籍！

例えば、これまでの日本大学理工学部建築学科の卒業生の総数は3万人近くいます。皆さんと同じ日本大学で学生時代を過ごし、現在はさまざまな分野で活躍しています。先輩たちは、どんな仕事に就いているのでしょうか。ここでは、最近話題の就職にまつわる本を紹介！



そもそも「働く」ってどういうこと？
「働く」とこと「生きる」ことは、関係がある？
これからの時代に「働く」ことの価値は？
これらには唯一の答えはないけども、著者の働き方研究家、西村佳哲さん（リビングワールド代表）が、さまざまなヒントを与えてくれる一冊！『自分をいかして生きる』（2009/バジリコ出版）

設計計画コース>の場合は、住宅産業の割合が最も高く、次が建設業となっている。<企画経営コース>の場合は、不動産と住宅が拮抗しており、この2つでほぼ半数となっており、それらに続くものとして、建設業が続いている。(その他の分析については、次ページにまとめる。)

次年度に向けて

平成24年度も依然として厳しい状況が予想される。さらに、昨年3月11日に発生した東日本大震災を受けて、昨年度は企業の求人・採用活動日程が大幅にずれ込み、求人を取りやめる企業も出ていた。来年度は、震災の復興需要も期待され、今年度に比べれば状況は多少はましなことも期待できないことはないが、就職をめぐる状況に関しては、楽観は禁物で、各自で情報収集し、十分な企業研究にもとづく対策を立てることを望みたい。また、企業の規模や知名度にこだわらず、自身のやりたい業種・業態を絞りつつ、企業やその業務内容を広い視野でとらえて、自己の能力の発揮できる企業を選択することを期待する。また、大学院進学についても引き続き奨励しているので、将来をにらんで多くの学生が

志望されることを願う。

さらに、学部3年生と大学院1年生には7月から就職ガイダンスなどの指導が始まる。就職活動が本格化するのは年明けと予測されるが、学内外の就

職支援関連講座やOB・OGに直接話が伺える機会は積極的に利用されたい。

(平成23年度就職担当：池田耕一)

表-1 就職状況の概要

欄内右側(橙色)は女子内数

	平成23年度						平成22年度					
	学部		大学院				学部		大学院			
			建築	不動産					建築	不動産		
就職希望者数	200	47	51	9	15	0	239	73	61	21	8	1
就職内定者数	179	44	48	8	15	0	170	54	48	17	8	1
大学院進学者数(留学希望・その他含)	104	22	7	2	1	0	109	29	9	2	0	0
就職・進学者数	283	66	55	10	16	0	279	83	57	19	8	1
求人会社数	258						199					

表-2 月別求人件数

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成22年度	10	29	42	35	22	17	8	10	12	3	0	0	2	3	2	1	1	2	199
平成23年度	18	22	35	38	17	28	9	14	10	6	9	10	20	9	7	5	1	0	258

表-3 求人・内定者の内訳

欄内右側(橙色)は女子内数

	求人会社数				内定者数												内定者数割合				
	大企業	中企業	小企業	計	大企業				中企業				小企業					計			
					学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院									
A 建設業	42	20	15	77	32	2	10	0	5	0	0	0	8	1	0	0	45	3	10	0	16.3%
B-1 住宅					34	10	5	1	11	2	0	0	2	0	0	0	47	12	5	1	15.4%
B-2 不動産	22	16	7	45	11	2	1	0	8	3	1	1	2	1	1	0	21	6	3	1	7.1%
C 設備	13	9	7	29	8	0	0	0	4	1	0	0	2	0	0	0	14	1	0	0	4.1%
D 設計事務所・インテリア	10	16	11	37	1	1	3	1	3	0	6	0	9	4	9	2	13	5	18	3	9.2%
E 建材・エンジニアリング	20	18	3	41	5	3	2	0	3	1	3	0	2	1	1	0	10	5	6	0	4.7%
F コンピュータ・情報	3	0	0	3	2	1	0	0	1	0	1	0	1	0	0	0	4	1	1	0	1.5%
G 製造業・営繕・その他	14	4	1	19	13	8	3	1	2	0	0	0	3	1	0	0	18	9	3	1	6.2%
小計	124	83	44	251	106	27	24	3	37	7	11	1	29	8	11	2	172	42	46	6	64.5%
H 官公庁・大学				1													5	1	2	2	2.1%
法人				6													1	1	0	0	0.3%
I 進学 (大学院・研究生・留学・その他)																	104	22	7	2	32.8%
J 自営業																	1	0	0	0	0.3%
総計				258													283	66	55	10	100.0%
																	338	76			

以上の統計は学部、大学院建築学専攻に関するものである。

注：大企業…従業員500名以上、中企業…従業員100名以上、小企業…99名以下、欄内右側は女子数、求人会社数…再募集は除く。



建築にまつわる職業って、どれくらいの種類がある？総合的なものから、より専門的なものまで、意外とビックリするくらいの職種があるのです。この2冊『建築学生のための就活完全マニュアル』(2012/ エクスナレッジ)や『建築学生のハローワーク』(2012/ 彰国社)には、いろんな職種が紹介されています。

Point!

【表-4A(就職先|建設)】大学院生や学部の教室推薦者及び研究室推薦者、さらに学部の女子学生は、いわゆる大手五社に集中しているが、学部の男子自由応募の場合は、特にそのような傾向は見られず、大手や中堅の各社に1~2名ずつ分布している。

【表-4B(就職先|住宅不動産)】この業界への学部学生の場合、ほぼ全員が自由応募。自由応募者の就職先としては、比較的大手の数社に集中し、大学院の場合、その傾向がよりはっきり出ている。

【表-4C(就職先|設備)】学部学生の場合は「ダイタン」と「三菱冷熱工業」に2名いるほかは、全て各企業1名ずつ。また、大学院生の就職者は男女通じて1名もいない。

【表-4D(就職先|内設計事務所・インテリア・コンサルタント)】この業界の場合も、ほぼ全員が自由応募。事務所のほとんどは、設計計画系であるが、構造事務所や、設備設計の事務所も多少は含まれている。いずれの事務所とも就職者は1~2名程度となっている。大学院生の就職者数が、学部生を上回っており、母数の少なさを考慮すると、この業界への就職者は院生の割合が高いことになる。

【表-4I】進学者のほぼ8割近くが、本学の大学院に進学。他大学大学院や各種学校などに進学した者は2割強。

<環境・構造コースの就職状況2011>

1 就職状況の概要

	学部	
	人数	割合
就職希望者数	103	22
就職内定者数	97	22
大学院進学者数(留学希望・その他)	45	5
就職・進学者数	142	27

2 求人・内定者の内訳

欄内右側(橙色)は女子内数

	内定者数						内定者数割合		
	大企業		中企業		小企業				
A 建設業	24	1	2	0	5	1	31	2	21.8%
B-1 住宅	11	5	3	1	1	0	15	6	10.6%
B-2 不動産	6	2	1	0	1	1	8	3	5.6%
C 設備	7	0	2	0	1	0	10	0	7.0%
D 設計事務所・インテリア	1	1	3	0	4	2	8	3	5.6%
E 建材・エンジニアリング	3	1	3	1	0	0	6	2	4.2%
F コンピュータ・情報	1	0	1	0	1	0	3	0	2.1%
G 製造業・営繕・その他	10	6	2	0	1	0	13	6	9.2%
小計	63	16	17	2	14	4	94	22	66.2%
H 官公庁・大学							3	0	2.1%
法人							0	0	0.0%
I 進学							45	5	31.7%
(大学院・研究生・留学・その他)									
J 自営業							0	0	0.0%
総計							142	27	100.0%

以上の統計は学部に関するものである。(過年度生は除く)

注:大企業...従業員500人以上、中企業...従業員100人以上、小企業...99名以下

表-4A 就職先の内訳 <建設>

注:(株)は省略

欄内右側(橙色)は女子内数

会社名	教室推薦		研究室推薦		縁故		自由応募		計											
	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院										
	鹿島建設							1	2	1	0	2	0							
竹中工務店							1	0	1	0	0	0								
大成建設			2				1	1	3	0	1	0								
清水建設							2	2	2	0	2	0								
大林組	2	2	1						3	0	2	0								
戸田建設	2						2		4	0	0	0								
西松建設							1		1	0	0	0								
東急建設							1		1	0	0	0								
安藤建設							1		1	0	0	0								
長谷工コーポレーション							1		1	0	0	0								
熊谷組							2	2	2	2	0	0								
間組							1		1	0	0	0								
奥村組								2	0	0	2	0								
東鉄工業							1		1	0	0	0								
銭高組							1		1	0	0	0								
浅沼組							2		2	0	0	0								
大本組							2		2	0	0	0								
ナカノフドー建設							1	1	1	0	1	0								
大末建設							1		1	0	0	0								
大豊建設							1		1	0	0	0								
東洋建設							1		1	0	0	0								
木内建設							1		1	0	0	0								
新日本建設							1		1	0	0	0								
田中土建工業							1		1	0	0	0								
京成建設							1		1	0	0	0								
ヤマウラ							1		1	0	0	0								
近藤建設							1		1	0	0	0								
旭化成集合住宅建設							1		1	0	0	0								
菊池建設							1	1	1	1	0	0								
ヤシマ工業							1		1	0	0	0								
大明建設							1		1	0	0	0								
新井工務店							1		1	0	0	0								
川村工営							1		1	0	0	0								
ピーテック							1		1	0	0	0								
ストラクス							1		1	0	0	0								
総計	4	0	2	0	3	0	0	0	0	0	0	0	38	3	8	0	45	3	10	0

表-4C 就職先の内訳 <設備>

注:(株)は省略

欄内右側(橙色)は女子内数

会社名	教室推薦		研究室推薦		縁故		自由応募		計								
	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院							
	ダイタン							2		2	0	0	0				
東洋熱工業							1		1	0	0	0					
三菱冷熱工業							2		2	0	0	0					
大成温調							1		1	0	0	0					
日比谷総合設備							1		1	0	0	0					
太平エンジニアリング							1		1	0	0	0					
朝日工業社							1		1	0	0	0					
第一工業							1		1	0	0	0					
TAKEUCHI							1	1	1	1	0	0					
日和エンジニアリング							1		1	0	0	0					
ジェステック					1				1	0	0	0					
設備設計21							1		1	0	0	0					
総計	0	0	0	0	0	0	1	0	0	13	1	0	0	14	1	0	0

表-4B 就職先の内訳 <住宅・不動産>

注:(株)は省略

欄内右側(橙色)は女子内数

会社名	教室推薦		研究室推薦		縁故		自由応募		計				
	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院			
	積水ハウス							4	1	1	4	1	1
大和ハウス工業							4	2	1	4	0	2	1
三井ホーム							4	1	2	4	1	0	0
旭化成ホームズ							1		1	0	0	0	
ミサワホーム							1	1	1	1	0	0	
ジェイアール東日本ビルテック							1		1	0	0	0	
大東建託							2		2	0	0	0	
スターツグループ							1	1	1	1	0	0	
東日本ハウス							1		1	0	0	0	
タマホーム							2	2	2	2	0	0	
大成サービス							1		1	0	0	0	
ポラス							1		1	0	0	0	
住友林業ホームテック							2		2	0	0	0	
住友林業アーキテクト							2	2	2	2	0	0	
エス・バイ・エル							1		1	0	0	0	
一条工務店							2	1	2	1	0	0	
東急ホームズ							2		2	0	0	0	
アキュラホーム								1	0	0	1	0	
東急ファンリテイサービス							2		2	0	0	0	
三井不動産住居リース							1		1	0	0	0	
三菱UFJ不動産販売							1	1	1	1	0	0	
日本ハウスインテグ							1		1	0	0	0	
裕家住宅							1	1	1	1	0	0	
一建設							1		1	0	0	0	
新昭和							1	1	1	1	1	0	
アーネストワン							1		1	0	0	0	
イオンテック								1	0	0	1	0	
生和コーポレーション							1		1	0	0	0	
ザイマックスマネジメント							1		1	0	0	0	
三菱地所ホーム							1		1	0	0	0	
東京セキスイハイム							1		1	0	0	0	
セキスイハイム信越							1		1	0	0	0	
ジェイアール東日本ビルディング							2	1	2	1	0	0	
ミサワホーム東京							1		1	0	0	0	
ミサワホーム西関東							1		1	0	0	0	
ミサワホーム静岡							1		1	0	0	0	
木下工務店							1		1	0	0	0	
三井ホームリモデリング							1	1	1	1	0	0	
東京ガスリモデリング							1		1	0	0	0	
リゾン					2				2	0	0	0	
トヨタホーム東京							2	1	2	1	0	0	
広島建設							1		1	0	0	0	
サウ住宅							1		1	0	0	0	
興和不動産								1	1	0	0	1	
清水総合開発							1	1	1	1	0	0	
FJネクスト							1		1	0	0	0	
NREG東芝不動産							1	1	1	1	0	0	
積和不動産中部							1		1	0	0	0	
サニーホームマルヤマ							1		1	0	0	0	
マツシタホーム							1		1	0	0	0	
グローバルス							1	1	1	1	0	0	
プレイス							1		1	0	0	0	
アーキネット								1	0	0	1	0	
総計													

<設計・計画コースの就職状況2011>

1 就職状況の概要

	学部	
就職希望者数	70	23
就職内定者数	57	20
大学院進学者数(留学希望・その他含)	50	16
就職・進学者数	107	36

2 求人・内定者の内訳

欄内右側(オレンジ)は女子内数

	内定者数							内定者 数割合	
	大企業	中企業	小企業	計					
A 建設業	6	1	1	0	3	0	10	9.3%	
B-1 住宅	17	5	7	1	1	0	25	23.4%	
B-2 不動産	1	0	3	2	0	0	4	3.7%	
C 設備	0	0	2	1	0	0	2	1.9%	
D 設計事務所・インテリア	0	0	0	0	5	2	5	4.7%	
E 建材・エンジニアリング	2	2	0	0	1	1	3	2.8%	
F コンピュータ・情報	1	1	0	0	0	0	1	0.9%	
G 製造業・営繕・その他	2	2	0	0	1	0	3	2.8%	
小計	29	11	13	4	11	3	53	49.5%	
H 官公庁・大学							2	1.9%	
法人							1	0.9%	
I 進学 (大学院・研究生・留学・その他)							50	46.7%	
J 自営業							1	0.9%	
総計							107	36	100.0%

以上の統計は学部に関するものである。(過年度生は除く)

注:大企業…従業員500名以上、中企業…従業員100名以上、小企業…99名以下

<企画経営コースの就職状況2011>

1 就職状況の概要

	学部	
就職希望者数	27	2
就職内定者数	25	2
大学院進学者数(留学希望・その他含)	9	1
就職・進学者数	34	3

2 求人・内定者の内訳

欄内右側(オレンジ)は女子内数

	内定者数							内定者 数割合	
	大企業	中企業	小企業	計					
A 建設業	2	0	2	0	0	0	4	0	11.8%
B-1 住宅	6	0	1	0	0	0	7	0	20.6%
B-2 不動産	4	0	4	1	1	0	9	1	26.5%
C 設備	1	0	0	0	1	0	2	0	5.9%
D 設計事務所・インテリア	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
E 建材・エンジニアリング	0	0	0	0	1	0	1	0	2.9%
F コンピュータ・情報	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
G 製造業・営繕・その他	1	0	0	0	1	1	2	1	5.9%
小計	14	0	7	1	4	1	25	2	73.5%
H 官公庁・大学							0	0	0.0%
法人							0	0	0.0%
I 進学 (大学院・研究生・留学・その他)							9	1	26.5%
J 自営業							0	0	0.0%
総計							34	3	100.0%

以上の統計は学部に関するものである。(過年度生は除く)

注:大企業…従業員500名以上、中企業…従業員100名以上、小企業…99名以下

表-4D 就職先の内訳 <設計事務所・インテリア・コンサルタント> 注:(株)は省略 欄内右側(オレンジ)は女子内数

会社名	教室推薦		研究室推薦		縁故		自由応募		計										
	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院									
三菱地所設計							1	0	0	1	0								
久米設計	1								0	0	1	0							
NTTファミリーーズ			1	1					1	1	0	0							
日本ERI					1	1	0	0	1	0	1	1							
梓設計					1	1	0	0	1	0	1	0							
佐藤総合計画					1	1	0	0	1	0	1	0							
INA新建築研究所							1	0	0	1	0	0							
石本建築事務所							1	0	0	1	0	0							
類設計室							1	1	0	0	0	0							
日総建							1	1	0	0	0	0							
プランテック総合計画事務所							1	0	0	1	0	0							
日本上下水道設計							1	0	0	1	0	0							
ライフ設計事務所							1	1	0	0	0	0							
イクス・アーク都市設計							2	0	0	2	0	0							
エスバス建築事務所							1	1	0	0	0	0							
小西泰孝建築構造設計							1	0	0	1	0	0							
東京建築研究所			1					0	0	1	0	0							
IMA建築設計事務所							1	1	0	0	1	1							
アトリエ・フォア・エイ							1	0	0	1	0	0							
シアターワークショップ							1	0	0	1	0	0							
市浦ハウジング&プランニング							1	0	0	1	0	0							
フライシュティフト							1	1	0	0	1	1							
アウェイ建築評価ネット		1	1					1	1	0	0	0							
スタジオBUG							1	1	1	0	0	0							
クレオ一級建築士事務所							1	1	0	0	0	0							
スムースデザイン一級建築士事務所							1	1	1	0	0	0							
アーキ・ビー・アンド・シー							1	1	1	0	0	0							
日積サーベイ							1	1	0	0	0	0							
東洋ハウジング							1	1	0	0	0	0							
ワールドエンジニアリングコンサルタント							1	1	0	0	0	0							
総計	0	0	1	0	2	2	1	0	0	0	0	11	3	16	3	13	5	18	3

表-4E 就職先の内訳 <建材・エンジニアリング> 注:(株)は省略 欄内右側(オレンジ)は女子内数

会社名	教室推薦		研究室推薦		縁故		自由応募		計										
	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院									
神鋼鋼線工業			1						0	0	1	0							
ジョンソンコントロールズ							1	1	1	1	0	0							
ミサワエクステリア							1	1	1	0	0	0							
日鐵住金建材							1	0	0	1	0	0							
AGC硝子建材							1	1	0	0	0	0							
山九		1							1	0	0	0							
ノダ							1	1	1	1	0	0							
三晃金属工業							1	1	0	0	0	0							
建研								1	0	0	1	0							
LIXILトータルソリューション							1	1	0	0	0	0							
ダイフレックス							1	1	1	0	0	0							
住軽日経エンジニアリング								1	0	0	1	0							
KIRII製作所								1	0	0	1	0							
旭ビルウォール							1	1	1	1	1	0							
江間忠ホールディングス							1	1	1	0	0	0							
総計	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	9	5	5	0	10	5	6	0

表-4I 就職先の内訳 <進学> 欄内右側(オレンジ)は女子内数

	学部		大学院		計	
	学部	大学院	学部	大学院		
日本大学大学院	83	18	1		84	18
東京工業大学大学院	1				1	0
日本デザイン学院	1				1	0
その他	19	4	6	2	25	6
総計	104	22	7	2	111	24

表-4J 就職先の内訳 <自営業> 欄内右側(オレンジ)は女子内数

	学部		大学院		計	
	学部	大学院	学部	大学院		
製造業・営繕・その他	1				1	0
総計	1	0	0	0	1	0

表-5 企業内定の応募方法

	学部		大学院		計	比率
	学部	大学院	学部	大学院		
教室推薦	4	3	7		7	3.2%
研究室推薦	8	2	10		10	4.6%
縁故	1	0	1		1	0.5%
自由応募	159	41	200		200	91.7%
総計	172	46	218		218	100.0%

注:官公庁、法人、大学院進学、自営業を除く

毎号、一枚の建築写真！

A Photo of World Architecture

SHUNKEN 2012

July

vol.140 no.2

022

vol.01 London's Olympic tower "Orbit Tower"

photo=George Rex

何だコレ！？建物？それともオブジェ？この赤い建築物は、今年の7月27日から8月12日にロンドンで開催されるオリンピックのメインスタジアム脇に建つ「オービットタワー」。ロンドン在住の現代美術家、アニッシュ・カプーアがデザインを行い、構造設計監修 ARUP によって建てられたもの。タワー全体の最大収容人数は700人。上階にはレストランもあるのだそうです。各競技にも目が離せませんが、建築家たちによる各競技場のデザインはもちろん、都市の再開発のあり方という視点からも見てみると、よりオリンピック全体が楽しくなるはず！夏休みにロンドンへ行ってみるのはいかがでしょうか！

Contents

[SPECIAL FEATURE]

- 02 2011年度 日本建築家協会賞受賞記念インタビュー
 「多面体の屋根・岐阜ひるがの」と
 作品集『KEN YOKOGAWA Landscape and Houses』
 横河健教授が今、考えること。

[NEWS & TOPICS]

- 08 学年を越えたチーム“（仮）アーキマンズ”が、SNACS主催の海の家実施コンペ
 「HAYAMA ISSHIKI Beach house 2012 Summer Competition」最優秀賞を受賞
 09 佐藤慎也准教授が、日本建築学会「2012年日本建築学会作品選奨」を受賞
 10 佐藤光彦教授が、「建築九州賞（作品賞）」を受賞
 16 新任非常勤講師紹介
 他

[REPORT]

- 13 短期大学部建築・生活デザイン学科オリエンテーション報告
 14 建築史・建築論研究室 関西研修旅行報告
 18 平成23年度 建築学科就職状況報告

[A PHOTO OF WORLD ARCHITECTURE]

- 22 vol.01 London's Olympic tower "Orbit Tower"

[EVENT REVIEW]

- 24 mosakiのイベント巡礼vol.1「日本科学未来館 企画展
 「世界の終わりのものがたり～もはや逃れられない73の問い」」

SHUNKEN

2012 July Vol.40 No.2

「駿建」

発行日：2012年7月24日

発行人：岡田章

編集委員：佐藤慎也・橋本修・川島和彦・田島和樹・山崎誠子・田所辰之助・高田康史

編集・アートディレクション：大西正紀 + 田中元子 / mosaki

発行：東京都千代田区神田駿河台 1-8-14 日本大学理工学部建築学科教室

TEL：03(3259)0724

URL：http://www.arch.cst.nihon-u.ac.jp

event review

mosakiのイベント巡礼

日本科学未来館 企画展 「世界の終わりのものがたり」 ～もはや逃れられない73の問い～

2012年3月10日(土)～6月11日(月) **会期終了**

世界の終わりとは、 何が終わることなのでしょうか？

♥タイトルから想像した以上の、素晴らしい展覧会だったなあ。科学未来館だし、てっきり環境問題や温暖化にフォーカスしてると思ったんだよね。

♠「もはや」というのは、さまざまな技術が発達したり、情報が明らかになった現在に突きつけられた問い、という意味かも知れないね。そしてその内容は、人間として生を営む以上、過去から現在、未来に渡るまで、普遍的なものだった。

♥セクションは、病気や災害の「予期せぬ終わり」、情報や関係性といった「わたしの終わり」、持続可能性や環境などの「文化の終わり」、そして、そもそも終わりとは何かを問う「ものがたりの終わり」の4つに分かれていて、それぞれについてのさまざまな問かけ、それらに関するデータが展示されている。発展国では癌、途上国ではエイズやマラリアで死ぬ確立

東京では、ニューヨークやロンドンにも負けず劣らずの面白いコトが毎日起きている。積極的に外へ出てみよう。きっとそこには新しい発見があるはず。



が高いとか、自動車事故で死ぬか災害で死ぬか、その確立についてとか。それらのリスクを知ること、何をどう判断するかが問われる。

♠どっちを選ぶか投票させたり、何か書かせたり、科学未来館お得意の参加型展示もたくさんあったね。見るだけでなく、考えさせる、参加させる方向に誘導していたし、大人も子どもも、時間をかけて展示と向き合っていたのが印象的。

♥どれも私たちが日頃なんとなく不安や心配として感じている問題ばかり。でも“なんとなく”をできるだけ放っておかず、もがきながら手探りするの、思考するってことだし、それを手助けしてくれるのが、科学なんだね。答えをくれる存在ではなく、ひとりひとりが考えるための存在。そんな裏メッセージも読み取れた。

♠どう生きるか、なぜ生きるか。正しい答

えなんてないけれど、こういう哲学的な問いって、建築を設計するときのベースにもなっているはずなんだよね。

♥デザインも効いてたね。こんなに別れや終わりについて考えさせる内容は、展示のつくり方ひとつでゲンナリ疲れてしまうものになりかねない。パンフレットや会場に散りばめられたグラフィックも大げさにならず、参加者の目線が保たれた規模の会場構成も、絶妙なバランスでうまくいった。

♠普遍性があるテーマで、今回だけでももったいない。常設や巡回があってもいいんじゃないかと思えるレベル。なかなかないよ。

♥会場構成を行った建築家の中原崇志さんによると、巡回を想定した設計になっているそう。世界中に渡り歩いて欲しい、そう思える展覧会だったよね。

Recommend | 2012年7-10月

[1]「スタジオムンバイ展 PRAXIS」| TOTO ギャラリー間 (東京都港区南青山) |

会期: 2012年7月12日(木)～9月22日(土)

インド建築界を代表する建築家、ビジョイ・ジェイン氏率いるスタジオ・ムンバイの個展がついにギャラリー間に登場! 多種多様な技能者が集うワークショップから生まれる、インドの原風景の息づく作品を紹介。また、同期間中 2012年8月には、東京国立近代美術館に60周年を記念して、スタジオ・ムンバイによる「夏の家」がオープン。現在、完成までのプロセスがブログ<<http://www.momat.go.jp/momat60/studiomumbai/>>で公開されている。

[2]「Arts&Life: 生きるための家」| 東京都美術館 (東京都台東区上野公園) |

会期: 2012年7月15日(日)～9月30日(日)

2010年から休館していた東京都美術館。リニューアル後初の企画展は、建築展! 「生きるための家」をテーマに、若手建築家たちによる新しい価値観のすまいを提示。最優秀賞提案作品は原寸大模型で登場。同館の歴史を振り返る「東京都美術館ものがたり」も併せて開催。設計者、前川國男にもスポットが当たる。

[3]「館長 庵野秀明 特撮博物館 ミニチュアで見ると昭和の技」| 東京都現代美術館 (東京都江東区三好) | 会期: 2012年7月10日(火)～10月8日(月・祝)

2003年から夏休みシーズンにジブリ展を開催してきた都現美。10年目となる今年は庵野秀明氏が館長となり、「特撮博物館」をオープンするというコンセプト。現代アニメの原点とも言える特撮ワールド、その技と魂を伝える展覧会だ。

[編集後記]

この度、学内広報誌「駿建」がリニューアルしました! 大学には、たくさんの学生の皆さんや先生方が日々、“建築を学ぶ”ということを通して、さまざまな物事を体験し、活動しています。そして、そこには魅力的で、触発されるコンテンツがたくさんあるに違いありません。新しい「駿建」では、大学内で皆さんの周りで起きている出来事、またより学生生活が充実するような学外の情報を、魅力的に発信していきたいと思えます。いつか学内に編集部を立ち上げて、有志の学生の皆さんと一緒に「駿建」づくりができればなあ、なんて夢もあります。感想やコンテンツの提案などがあれば<shunken@arch.cst.nihon-u.ac.jp>までメールをください。皆さんと共に「駿建」を育てて行ければと思います。それでは、次号もお楽しみに! (大西正紀+田中元子/mosaki)